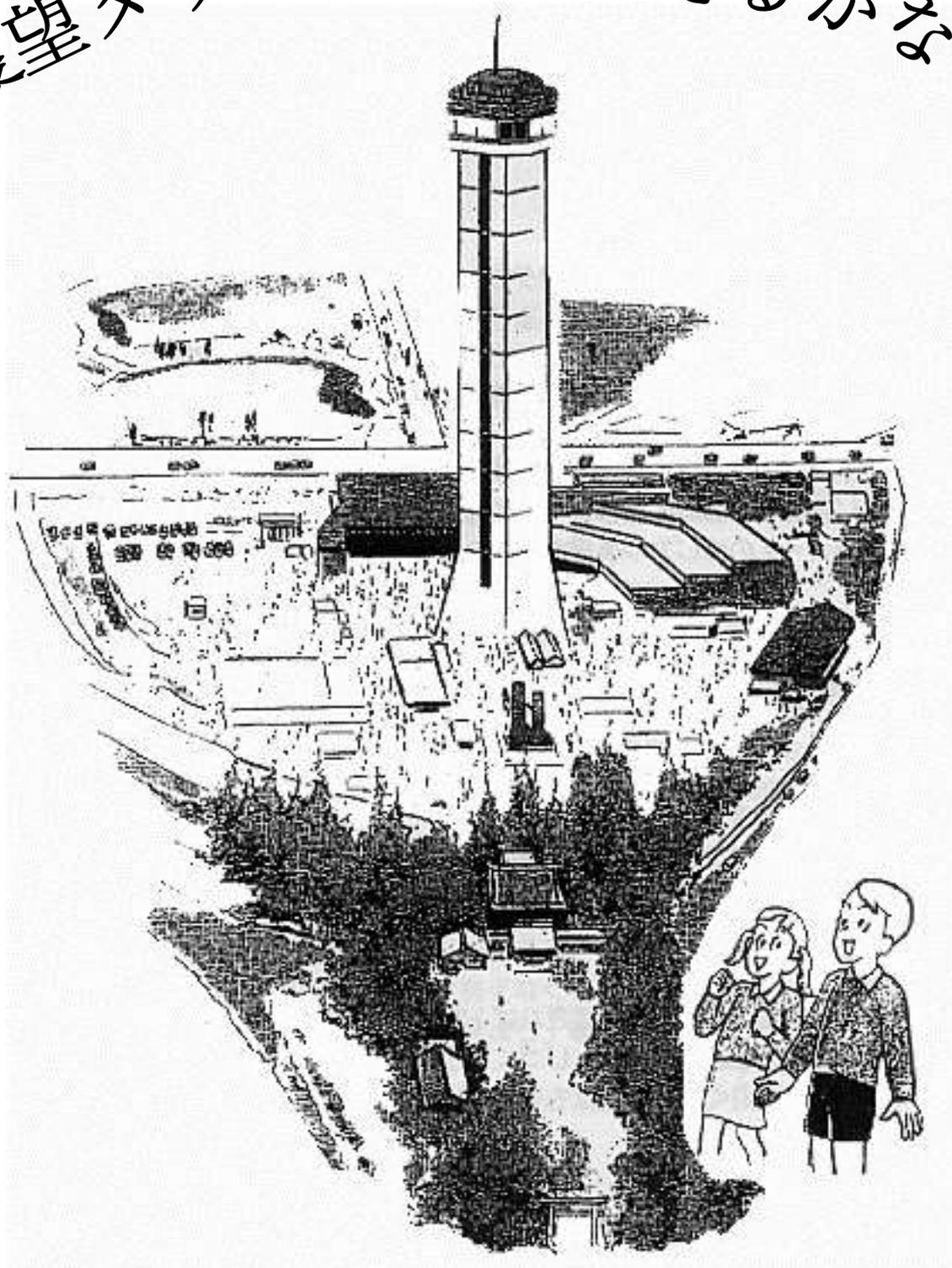


展望タワーから 見えるかな？



## はじめに

下の解説をよく読んでやり方を説明すれば、子どもたちは自分たちでどんどん進めることができます。子どもたちが積極的に発見したり考えたりできるように、時には相談に乗ったり一緒に探してみましよう！

もちろん大人の方も十分に楽しめる内容になっているので、大人と子どもと一緒に活動してお互いの発見や考えを話し合っても、楽しい体験になるでしょう。

木曽三川公園センター周辺や輪中で見られる自然や人間の営みの偉大さ・すばらしさを、じっくりと味わってください！

## 1. 活動のねらい

- ・展望タワーから見える木曽三川公園センター付近の自然環境や社会的環境の様子を、興味を持って観察することができます。
- ・ワークシートを手がかりに観察することで、河川・中州の形態や周辺の自然環境、耕作地・住宅などの土地利用についても具体的に気づくことができます。
- ・観察したことや気づいたことを絵や文で表現し、それぞれの発見や感じたことを話し合うことで、お互いの見方や感じ方に関心を持ち、一人一人の感じ方や表現のしかたの個性・すばらしさに気づくこともできます。

## 2. 季節と時間

### 1：季節

一年中いつでもできます。

何度かくり返して体験することで、四季の移り変わりの中での自然や人々の生活の様子、変化や不思議さをしっかりと実感することができるでしょう。

### 2：所要時間

20分程度でも実施可能ですが、できれば1時間くらいかけてタワーから展望できる自然の様子や、人間の営みの様子などをじっくり観察してください。1回の時間は短くとも、何度もくり返して体験できればより楽しいでしょう。

### 3. 対象年齢と人数

#### 1：対象

小学1年生から大人まで。

- 基本的には簡単な絵や文字が書ければ誰でもできる活動ですが、指導者なしで子どもたちだけで行なうのでしたら、小学3年生以上が望ましいと思われます。
- それより年齢が下の子どもたちの場合には、大人と一緒にいて困っているときにはアドバイスしてあげるといいでしょう。

#### 2：人数

何人でもできますが、2人以上で行なったほうが楽しくできます。

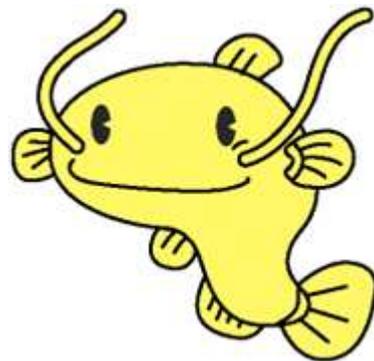
- 6人以上の場合、展望室での行動のしやすさを考慮すると、複数のグループに分けるといいかもしれません。

### 4. 用意するもの

<展望タワーから見えるかな?>ワークシート  
筆記用具

人数分  
人数分

※画用紙などの少し厚めの紙に印刷すると、子どもたちは記入しやすいでしょう。また、画板のような下敷きになるものがあれば書きやすいと思われますが、展望室での行動のしやすさも含めて検討してください。



## 5. 進め方

### ①シートの配布・説明

〈タワーから見えるかな?〉のワークシートを配り活動の仕方を説明する。

- ・タワーから周辺を展望しながら見つけてみようを探す。
- ・〈発見ガイド〉を参考に、発見したり気づいたりしたことを絵や言葉でワークシートに記録する。

- ・「自分の目で見て自分で考える」

絵や言葉で記録するのは「自分でやる」ための手段です。つまり、タワーからの展望を写生する活動が目的ではありません。シートには「自分が実際に見たこと・感じたこと」を書くことが重要です。

- ・「人間と自然との関わり合い」を見る。

つまり「雄大で時には恐ろしい木曾三川の流れと、その自然と向き合い生きてきた人間の営みの姿を、目の前の眺めの中から発見する。」ということです。

- ・「混んでいたら、無理して東西南北のすべてに答えなくてもいいけれど、1ヶ所でもいいからしっかりと納得いくまでよく見よう」など、説明してあげてください。

### ②分かち合い（感想・話し合い）

- ・発見できた歴史的環境や自然環境のようす、見て感じたことなどについて話し合う。

- ・15分以上が望ましいのですが、少ない時間でも大丈夫です。話し合いをしていただくことが大切です。
- ・活動の直後に話し合うことが望ましいですが、場所や時間などがなければタワーを降りてからや帰りの車中など、帰ってからでもいいでしょう。
- ・お互いの感じたことや発見したことが自然に出てくる雰囲気を作りましょう。
- ・大人の方や先生方はたとえ帰りの時間が迫っていても、笑顔と心の余裕を忘れずに子ども達の言葉を聴いてあげてください。

## 6. 先生方へ

### (1) 「低い土地の暮らし」との関連

この活動は「低い土地の暮らし」の学習と深い関連があります。

この単元の学習後であれば、見つけたことと一緒に学校で学習したことを思い出しながら考え・観察することで、体験を通して学習のふりかえりを行なうことができます。

また学習する前であれば、単元の学習の導入としてワークシートに書いたことや体験したことについて話し合ったりしながら、「低い土地の暮らし」について詳しく調べていく動機付けを図ることもできるでしょう。

### (2) 「流れる水の働き」との関連

この活動は、小学校5年生理科の「流れる水の働き」の学習に関連しています。

タワーの上から揖斐川等の流路に見られる中州や砂州を遠望し、それができた理由について考えることで、実感を持って学習のふりかえりを行なうことができます。

また、長良川や木曾川の流れの雄大さを目の当たりにすることで、川の流れの雄大さを実感することができると思われます。

このワークシートを使うことで、教科の学習の復習や導入になると同時に、子どもたち一人一人が貴重な体験の機会をより豊かなものにすることができます。

## 環境学習教材 C-1 タワーから見えるかな? ワークシート記入例

### 【北】

- ・水屋：昔の輪中内で見かけられた、「水屋」。復元されたものが、木曾三川公園センター内に建てられている。
- ・排水機場：揖斐川の支流である大江川にある。
- ・田園地帯：昔は堀田だったが埋め立てられた。

#### <発見ガイド>

人の暮らしと川の関係はどうだろう？

→水屋：母屋より高くし、洪水の時に避難し、水が引くまで生活できるようにたてた家。普段は、食料保管、物置などとして利用。少しでも高い位置に立てるため、石垣を組んだり、土を盛り上げるなどした。母屋の軒には舟（上げ舟）をつるして洪水に備え、仏壇をすぐに二階へ上げることができるように滑車を取り付けた家もある（上げ仏壇）。

→排水機場：輪中内にたまった水を排水するための設備。

### 【西】

- ・揖斐川：他の2本の川と違い、蛇行しながら緩やかに流れている。中州や砂州がある。
- ・養老山地：揖斐川の西の方にそびえている。
- ・養老山地のふもとは畑がある。
- ・田園風景：揖斐川の西側は稲作の田園風景が広がっている。

#### <発見ガイド>

揖斐川の流れはほかの2本の川と違うかな？

→蛇行しながら緩やかに流れている。

川のむこうの土地はどのようなになっている？

→養老山地がそびえ、ふもとは畑がある。

### 【東】

- ・背割堤：明治時代にデ・レーケ等により木曾三川の分流工事が施工され、下流部で合流した木曾川と長良川を分流した堤防
- ・長良川大橋と立田大橋：長良川には長良川大橋が、木曾川には立田大橋が架かっている。名古屋圏とをつなぐ大動脈となっている。
- ・木曾川、長良川は、揖斐川よりも川幅が大きい。

### 【南】

- ・背割堤：三川分流工事で施工された背割堤が、揖斐川、長良川に沿う形で南へ伸びている。
- ・千本松原：1754年から1755年に行った宝暦治水工事の終了を記念して、マツを約1000本植えた。
- ・治水神社：宝暦治水工事で亡くなった方を祭っている。

#### <発見ガイド>

海へと続いていく川。この先3本の川はどうなるだろう？

→揖斐川と長良川は河口で1本の川となり、木曾川との間にナガシマスパーランドをはさみ、2本並んで海に流れる。